

再び大水害が襲う

主な登場人物 長野 剛 (ながの・たけし | おらが産業社長 | 54 歳) 浅川 真理 (あさかわ・まり | おらが産業総務部長 | 32 歳)

BCP (事業継続計画) = 災害時に被災しても、主要な事業を継続できるようにしておくための計画・取り組み

突然の災害や事故が発生したら、あなたの会社は事業を続けられますか？この連載では、社員10人の小さな製造業「おらが産業」が、地域や会社に襲い掛かる災害や事故など、さまざまな危機に立ち向かう架空の物語を通して、事業継続計画(BCP)の必要性和その効果を描きます。危機に備えることが、どれほど大切かを一緒に考えてみませんか？すぐに実践できるヒントが見つかるはずです。

7月中旬。長野市は連日の雨で不穏な空模様が続いていた。2019年の台風

今回のポイント

- ① 大きな河川の近くでなくても水害での被害は起きうることを知っておく。
- ② 現在の保険の損害補償範囲が適切であるかどうかを、保険の専門家などと事前に調べておく。
- ③ 主要顧客や取引先の連絡先リストを作成するなど、緊急時に情報を発信・収集する手段を準備しておく。

ドマップにはその水路の氾濫リスクは掲載されていなかった。

「あの水路が盲点になるなんて……」床上浸水した工場を前に、長野はただ唇をかみしめるしかなかった。操業停止は避けられない状況に追い込まれた。

それでも救いがあった。以前、市のBCP講座を受けた際、保険の専門家と相談しながら「自然災害による損害」への補償を厚くカバーするプランに加入していたのだ。結果、在庫品の大半は保険で補償される見込みとなった。さらに、日ごろから金融機関と緊急時の資金調達

19号で千曲川が決壊し、多くの地域が水没したあの惨事から6年。まさか再びこれほどの大規模被害に見舞われるとは、誰も予想していなかった。

「社長、千曲川が危ないようです」総務部長の浅川真理が社長室を訪れ、緊迫した表情で伝えた。長野市を流れる犀川と千曲川との合流付近で増水し、氾濫危険水位に達したという。市のハザードマップには合流地周辺の工場や住宅地が最大10メートル程度浸水する恐れがあると明記されていた。

「ウチの工場はかなり離れているし、

について話し合っていたことで、復旧に必要な融資もスムーズに受けられる運びとなった。

浅川は、顧客の連絡先をまとめたリストを取り出し、即座に被害状況と復旧見込みを伝えるメールを送るとともに、ホームページに被害状況を載せた。すると、多くの取引先や近隣企業から応援が集まり、泥かきや設備修理が驚くほど早く進んだ。

「今回の被害は想定外だったが、こうしてすぐ支援を受け、事業を立て直せるのも、BCPに備えていたおかげだな」

浸水想定区域の外だから大丈夫だろう」社長の長野剛は心配な表情をしながらも、自社が被災するとは考えてもみなかった。ところが……。夕方になると工場の床一面に水が流れ込んできた。大きな設備は被害が免れたが、床に積んでいる在庫すべてが水浸しになった。

被害をもたらしたのは、工場脇を流れる小さな水路だった。普段は大した水量はないのだが、千曲川が増水したことで犀川が逆流して氾濫。いわゆるバックウォーター現象が起きて、犀川に流れ込む水路までがあふれたのだ。ハザー

浸水してから2週間後には、ほぼ通常の生産に復帰。浅川は改めてハザードマップを見ながら、「水路を含むリスクを洗い出さないといけませんね」と長野に語りかけた。

長野は床を拭きながらつぶやいた。浸水してから2週間後には、ほぼ通常の生産に復帰。浅川は改めてハザードマップを見ながら、「水路を含むリスクを洗い出さないといけませんね」と長野に語りかけた。

「災害は想定外の形でやってくる。だからこそ、備えは常に最新かつ万全にしておく必要がある。今回の経験を生かして、さらに強い会社を目指そう」長野の力強い言葉に、浅川は深くうなずいた。

小さな会社でもできるBCPチェック

BCP (Business Continuity Plan：事業継続計画) と聞くと、なんだか難しく感じられるかもしれませんが、立派な計画を作る必要なんてありません。小さな会社でもすぐにBCPに取り組むことができます。大切なことは、どんな小さな取り組みでも、継続して行うこと！毎月1回、30分でもいいので、下記のような質問項目を参考に、何ができそうか考え、できるものから少しずつやってみてください。まずは、防災をしっかり行うことから始めてみるのも結構です。

リスク	内容
人的資源	緊急事態発生時に、支援が到着するまでの従業員の安全や健康を確保するための災害対応計画を作成していますか？
	災害が勤務時間中に起こった場合、勤務時間外に起こった場合、あなたの会社は従業員と連絡を取り合うことができますか？
	緊急時に必要な従業員が出社できない場合に、代行できる従業員を育成していますか？
	定期的に避難訓練や初期救急、心肺蘇生法の訓練を実施していますか？
物的資源(モノ)	あなたの会社のビルや工場は地震や風水害に耐えることができますか？そして、ビル内や工場内にある設備は地震や風水害から保護されますか？
	あなたの会社周辺の地震や風水害の被害に関する危険性を把握していますか？
	あなたの会社の設備の流動を管理し、目録を更新していますか？
	あなたの会社の工場が操業できなくなる、仕入先からの原材料の納品がストップする等の場合に備えて、代替で生産や調達する手段を準備していますか？
物的資源(金)	1週間又は1ヵ月程度、事業を中断した際の損失を把握していますか？
	あなたは、災害後に事業を再開させる上で現在の保険の損害補償範囲が適切であるかどうかを決定するために保険の専門家と相談しましたか？
	事前の災害対策や被災時復旧を目的とした融資制度を把握していますか？
	1ヵ月分程度の事業運転資金に相当する額のキャッシュフローを確保していますか？
物的資源(情報)	情報のコピーまたはバックアップをとっていますか？
	あなたの会社のオフィス以外の場所に情報のコピーまたはバックアップを保管していますか？
	主要顧客や各種公共機関の連絡先リストを作成する等、緊急時に情報を発信・収集する手段を準備していますか？
	操業に不可欠なIT機器システムが故障等で使用できない場合の代替方法がありますか？
体制等	あなたの会社が自然災害や人的災害に遭遇した場合、会社の事業活動がどうなりそうかを考えたことがありますか？
	緊急事態に遭遇した場合、あなたの会社のどの事業を優先的に継続・復旧すべきであり、そのためには何をすべきか考え、実際に何らかの対策を打っていますか？
	社長であるあなたが出張中だったり、負傷したりした場合、代わりの者が指揮をとる体制が整っていますか？
	取引先及び同業者等と災害発生時の相互支援について取り決めていますか？